

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

11月2日(金)民生児童委員連絡協議会が開かれ、様々な情報交換をしました。越生小学校ではこうした機会を利用し、地域と一体となって児童の教育を推進しています。

梅園小学校

11月10日(土)に、「歌声ひびけ! 心をついに 梅小最高のハーモニーを届けよう」をスローガンに校内音楽会を実施しました。日頃の音楽の学習の成果を発揮し、心を込めた演奏で、聴いている人たちの心に最高のハーモニーを届けました。



越生中学校

10月27日(土)に、校内合唱コンクールが行われました。今年のスローガンは「昇華〜我らの高みへ 今こそ心うならせる時」。日本一を目指す越中生の想いが詰まった歌声が、体育館いっぱいに響き渡り、感動の涙を呼びました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

- 平成30年度の子供たちの学力調査結果
(越生町の子供たちの状況)
全国・学力学習状況調査
対象 小学6年・中学3年
教科 国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科
※Aは知識 Bは活用に関する問題
- 分かったことへ小6<>
 - ・国語の「話す・聞く能力」が身に付いている。
 - ・国語の「書く能力」が十分に付いている傾向がある。
 - ・算数の「図形」の問題を解く力が身に付いている。
 - ・理科の「自然現象への関心・意欲・態度」が高く、「記述式」で回答する力が身に付いている。
 - 分かったことへ中3<>
 - ・国語の「読む能力」が身に付いている。
 - ・国語の「書く能力」が十分に付いている傾向がある。
- ・数学では、全体的に問題を解く力が十分に付いていない傾向がある。

ズームイン教育257
すべての子供たちの
学力を伸ばしていくために

越生町教育委員会

- ・理科の「自然現象についての知識・理解」「観察実験」に関する問題を解く力が身に付いている。
- 2 県・学力学習状況調査
対象 小学4年・中学3年
※昨年からの学力の伸びを見える調査
- 教科 国語、算数・数学、英語
※英語は中学2、3年が実施
- 分かったこと
 - ・全体的な学力の伸び幅の平均は、県内トップクラスであった。
 - ・国語では、特に小5、中3の伸び幅が大きい。
 - ・算数・数学では、特に小5、中2の伸び幅が大きい。
 - ・英語では、特に中3の伸び幅が大きい。
- 3 これからの目標
 - これらの傾向を踏まえ、教育委員会では、学校と連携して、次のように取り組んでいます。
 - 基礎的・基本的内容が確実に身に付く指導の徹底
小テストや繰り返し学習などを行ったり、サマースクールなど補充学習の機会を設けたりして、全ての子供たちの学力が伸びる指導を展開します。
 - 家庭学習の習慣化を目指す
取組
子供たちが意欲的に取り組める課題を検討したり、年度当初に配布している「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレットを活用したりして、家庭学習の習慣化を図る取組を充実させます。

越生浪漫

No. 119

越生の芭蕉句碑 その2



芭蕉句碑③

越生町内の芭蕉句碑4基のうちの2基は津久根地内にあり、どちらにも『おくのほそ道』収載の句が彫られています◆句碑③は、おごせゴルフクラブ入口近くの薬師堂に立っています。裏面に発起人の、越生俳壇の盟主、津久根の新井角丈（新井清次郎）と、俳友の仲むつ美（仲甫十郎）の名があります。揮毫した三森幹雄は、正岡子規との論争で知られる旧派の代表的な俳人です◆八幡橋たもとの句碑④の裏には、「登山 明治二十五年九月十



芭蕉句碑④

六日」とあり、新井福太郎ほか13人の名が連記してあります。出羽三山に登拝した一行が、羽黒山別当覚淳が文政8年（1825）に月山登山口に建てた句碑の銘文を写して持ち帰り、転写して建立したものです。
芭蕉句碑③ 津久根 薬師堂
明治13年（1880）建立
（表） 若葉の
青葉 芭蕉
あら 日の光り
たふと 少講義 三森幹雄謹書
※「あらたふと青葉若葉の日の光」
芭蕉句碑④ 津久根 八幡橋際
明治25年（1892）建立
（表） 涼しさやほの三日月の羽黒山
※加多羅礼努湯登登廻仁奴良須當毛東迦那
資愛書
雲の峯いくづくづれて月の山
権中納言藤原豊季書
※「語られぬ湯殿に濡らす袂かな」

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.80

ミツバチの天害虫
ハチノスツヅリガ
「チョウ目メイガ科」

ミツバチの巣に蛾が発生します。通称「スムシ」（巣虫）とか「ハチミツガ（蜂蜜蛾）」と呼ばれるハチノスツヅリガ（蜂の巣綴り蛾）です◆幼虫は糸を吐きながら巣板を食い荒らし、最後は巣箱自体の木材を食べ、ハチの集団は崩壊します。本種の成虫は褐色で斑紋がほとんどなく、大きさは開翅長（翅を開いたときの左右の長さ）雄20mm、雌30mm前後、雌雄でかなり違います◆人類が養蜂を始めた5千年前以前から、本種はミツバチの巣に寄生しており、起源は東洋とされています。現在の分布は、国内では北海道を除く全国、世界的にはアフリカを除く4大陸です◆本種の羽化と産卵に関して面白い生態が知られています。羽化時刻

はミツバチが静かな夕方から夜、即ち午後5時〜10時です。羽化成虫は翅を拡げる場所を求めて巣を離れ、その後高木の茂みに移動します。交尾後の雌は毎日、夜に産卵のために巣を訪れ、夜明け前に巣を離れます。ハチが静かな夜間の産卵ですが、早く訪れると、足をかまれるそうです。本種を排除する最大のポイントは、人間による巣内掃除です◆ミツバチが家屋内で営巣すると、本種が発生して家をかじるほか、羽化成虫が歩き回り、その後の排泄（蛾尿）で家屋が汚れる家屋害虫の側面もあります。筆者も、空の巣箱を家の中に置いて、羽化成虫に汚染された苦い経験があります。（阿部 功）



ハチノスツヅリガの成虫